

実施年度	: 2024 (2025 入試) 年度
試験日	: 2025 年 2 月 23 日
入試種別	: 大学院 (修士課程) 入学試験問題
学部・研究科	: 実践真宗学研究科
科目名	: 専門科目

【解答又は解答例】

1

(1) 解答例

仏が世に生まれ出た目的・本意を意味する語。親鸞は、釈尊をはじめ諸仏が世に出る目的は、阿弥陀仏の本願を説いてあらゆる衆生を救済することにあるとし、『無量寿経』を出世本懐の経としている。

(2) 解答例

悪事を犯しても浄土往生のさまたげにはならない、とする理解をいい、悪を勧める教えとする浄土教理解にまでつながりかねない、代表的な異義（誤った教義理解）の一つとされる。

2

(1) 解答例

書き下し：かの国の菩薩、みなまさに一生補処を究竟すべし。その本願、衆生のためのゆゑに、弘誓の功德をもってみづから莊嚴し、あまねく一切衆生を度脱せんと欲せんをば除く。

意識：浄土の菩薩たちは、みな一生補処の位に至ることができる。ただし、それぞれの願いに応じて、人々のために尊い誓願の功德を身にそなえ、迷いの世界に還って広くすべてのものを救うこともできる。

(2) 解答例

書き下し：極重の悪人はただ仏を称すべし。われまたかの摂取のなかにあれども、煩惱、眼を障へて見たてまつらずといへども、大悲、倦きことなくしてつねにわれを照らしたまふといへり。

意識：きわめて罪の重い悪人はただ念仏すべきである。わたしもまた阿弥陀仏の光明の中に摂め取られているけれども、煩惱がわたしの眼をさえぎって、見たてまつることができない。しかしながら、阿弥陀仏の大いなる慈悲の光明は、そのようなわたしを見捨てることなく常に照らしてくださる。

(3) 解答例

意識：聖道門の人は、みな自力の心をよりどころとしているが、思いはかることのできない阿弥陀仏のはたらきに出会えば、自力のはからいがまじらないことを根本の法義とすると知らされるのである。

3

当該問題は、宗教的实践に関する受験生の知識・体験・姿勢等を総合的に問うものであり、その解答は一義的でなく解答例の提示にはなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。

採点は、以下の点を踏まえて総合的に評価する。

- ・ 解答の字数が設問の指示に従っていること。
- ・ 設問文の内容を正しく要約できていること。
- ・ 自身の考えが設問の指示を踏まえて述べられていること。
- ・ 宗教的实践に関する知識・考察が十分と認められること。
- ・ なお、誤字、脱字等、難のある記述には減点を行う。